

発育発達期における女子の運動、スポーツ離れに関する基礎研究

滝 優里花 (岐阜大学大学院)

1. 目的

本研究は、研究課題Ⅰでは、女子の運動・スポーツおよび体育授業に対する意識に関して、男女の考え方を比較検討し、女子の運動指導を行う上でどんな環境設定や配慮が必要なのか検討することを目的とした。研究課題Ⅱでは、発育発達期の女子に焦点を当て、加齢に伴う運動習慣の変化や心理的变化を考慮し、女子の運動・スポーツ離れの要因を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

1) 対象者

研究課題Ⅰでは、G 大学に在学する男子大学生 112 名、女子大学生 98 名、研究課題Ⅱでは、G 県内の公立の小中学校に通学している小学校 1 年生から中学校 3 年生までの女子 444 名であった。

2) 調査方法

研究課題Ⅰでは、9 因子から成る、運動・スポーツおよび体育授業が嫌いになる要因に関する 48 項目のアンケート調査を、研究課題Ⅱでは、10 の構成因子から成る、女子の運動遊びや体育授業に関する 41 項目のアンケート調査を行った。そしてすべての人を対象として、身体活動状況に関する項目のアンケート調査を行った。

3) 分析方法および統計解析

研究課題Ⅰでは、女子の運動・スポーツおよび体育授業に対する意識に関して、男女の考え方の違いを検討するため、男子群と女子群に分類し、t 検定を適用した。

研究課題Ⅱでは、女子の運動・スポーツおよび体育授業に対する意識や嗜好の加齢に伴う変化を検討するため、単回帰分析を適用し相関の大きさを比較した。また、運動・スポーツおよび体育授業に対する意識の違いを学年部ごとに比較検討するため、因子分析法を適用し、運動離れの要因因子を抽出した。なお、統計的有意水準は、すべて 5% 未満とした。

3. 結果および考察

紙面の都合上、研究課題Ⅰは割愛させていただく。回帰分析から、発育発達期の女子は、加齢に伴うことによって、体育授業が嫌いな子や運動が苦手な子が増加する傾向が見られた。また、第 3 者視線、および周りからの評価といった要因が、運動および

体育授業に対する意識や思考に影響を及ぼしていることが示唆された (表 1)。また、因子分析から、中学生になると、『ファッション・規律強要』因子が抽出された。中学生の時期になると、規則に縛られるのがイヤだといった意識が出てくると示唆された。一方で、小学校 1・2 年生のみ、『集団行動』因子が抽出された。小学校低学年の時期は、仲間と活動することよりも、自分が思った通りに活動することのほうが運動に対しての楽しさを見出していると推察される (表 2)。

表 1 女子の運動に対する意識や嗜好の分析結果

目的変数	標準偏回帰係数	判定
運動することが得意である	-0.975	**
規律性を強要される (髪を縛る・服装を整える・きびきび動く) からイヤだ	0.950	**
外よりも室内にいるほうが好きだから運動はしない	0.944	**
季節によって暑さや寒さを感じるから運動するのがイヤだ	0.940	**
月経 (生理) があるから運動するのがイヤだ	0.938	**
自分の運動能力が仲間に知られるからイヤだ	0.937	**
恐怖心があるから運動するのがイヤだ	0.935	**
親子で運動をする機会がない	0.933	**
友達との間でグループ化があるからイヤだ	0.926	**
評価をされるのがイヤだ	0.923	**
体育授業が好きである	-0.921	**
走ることがイヤだ	0.920	**
仲間に気をつかうからイヤだ	0.909	**
運動よりも自分が得意としていることがあるから運動はしない	0.904	**
水泳がイヤだ	0.894	**
髪が乱れてしまうからイヤだ	0.866	**
疲れるからイヤだ	0.861	**
自分の体型が気になるからイヤだ	0.859	**
運動中に頑張っている姿を人に見られるのがイヤだ	0.848	**
運動をする時間がない	0.827	**
優劣がつくからイヤだ	0.824	**
球技がイヤだ	0.823	**
上手くできないと仲間に怒られるからイヤだ	0.809	**
勝敗や順位が生じるからイヤだ	0.804	**
運動することに興味がないから運動するのはイヤだ	0.801	**
遊ぶのが馬鹿らしいと思うから運動はしたくない	0.782	*
日焼けをするからイヤだ	0.781	*
近所に一緒に運動をする友達がいない	0.780	*
怪我をするからイヤだ	0.772	*
仲間外れになるからイヤだ	0.771	*
汗をかくからイヤだ	0.765	*
運動ができないと仲間から馬鹿にされるからイヤだ	0.757	*
服が汚れてしまうからイヤだ	0.754	*
兄弟・姉妹と運動する機会がない	0.737	*
スポーツ以外の習い事をしているから運動はしない	0.733	*

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$

表 2 学年ごとの構成因子の因子寄与率



4. まとめ

女子の指導を行う上で、小学校低学年は運動自体を楽しみと思える内容にする必要があると考えられる。しかし、小学校中学年以降は男子の視線を気にせず運動を行える環境設定をすることや人間関係を考慮しながら指導を行う必要があると考えられた。